

第88期 中間事業報告書

令和3年4月1日から
令和3年9月30日まで



営業の概況



株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第88期第2四半期の営業の概況と決算の状況をご報告するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

業績全般の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続き、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の再発令や延長などにより、回復のペースが弱い動きとなりました。また、世界でも、国によっては感染再拡大が見られるなど、未だ予断を許さない状況が続いています。今後は、ワクチン接種の進行や十分な感染対策などを背景に、景気も持ち直しに向かうことが期待されますが、一方で原油高に起因する材料高や消費マインドへの影響、加えて半導体不足など不安定要素もあり、当面は注視が必要と思われます。

住宅業界におきましては、令和3年4月～9月の新設住宅着工は、戸数446千戸（前年同期比7.6%増）、床面積36,723千㎡（同8.9%増）となりました。新型コロナウイルス感染拡大で大幅に着工戸数が減少した昨年度比では緩やかな増加基調で推移しているものの、コロナ禍以前の水準にはまだ戻っていない状況です。

今期は第6次中期経営計画「FUKUVI NEXT」（2020年度～2022年度）の2年目にあたりますが、下記の3つの基本方針に則った施策を展開しております。

・成長分野への積極展開

国内では、非住宅、リフォーム分野などを成長分野として位置付け、主力となる建築資材分野で、「フェノバード」「樹脂開口枠」など戦略的に攻める製品・分野を選定のうえ、需要家に価値を訴求するアプローチを深化させた結果、一定の成果が得られました。海外に関して米国エリアでは、住宅着工の堅調な推移により窓枠需要の伸びが続く一方で、大型物流倉庫の建設による需要増や職人技能を必要としないプラスチック製品への切り替えによってVictory Bearブランドが伸長しました。またASEANエリアでは、新型コロナウイルス感染拡大による影響が収束したとはいえ、依然、厳しい状況が続くと考えますが、アフターコロナを見

据えて、現地の建材ビジネス基盤構築に向けたパートナーとの協業や、マーケティング活動の強化にあたって新商品開発を推進するなど、事業基盤の確立を進めています。

・収益構造の改革推進による利益の創造

事業ポートフォリオの再構築を重要課題として位置付け、組織横断型で取り組むことで、持続性や成長性、収益性などを見据えた事業戦略を進めています。原価低減、不採算取引の見直し等に取り組んだ結果、売上高総利益率で前年同期比2.0ポイント、同営業利益率で2.2ポイントと各々改善につなげることができました。また、新事業・新商品開発への取組みでは、公共空間向け屋外家具ブランド「Fandaline（ファンダライン）」を立ち上げました。さらに、熱可塑性炭素繊維複合材（CFRTP）の研究開発において、革新一貫製造プロセスの開発テーマが、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の省エネルギー技術研究開発事業として採択されました。DX推進に向けた取組みでは、経営戦略に活かすための基幹システム入れ替えを見据え、全社レベルで体制構築や環境整備を進めています。

・挑戦と変革を実現する経営基盤の確立

前述の新事業や新商品開発への取組みに加え、長期的な視点に立った人材戦略として、社員の挑戦を後押しする人事制度の改定や働き甲斐のある社内体制の整備を進めています。

これらの活動により、当第2四半期連結累計期間の売上高は17,594百万円（前年同期比4.3%増）となりました。

利益面につきましては、原価低減、経費圧縮に努めた結果、売上総利益5,116百万円（前年同期比11.9%増）、営業利益は493百万円（同42.18%増）となりました。営業外収益168百万円があり、経常利益は624百万円（同52.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益413百万円（同59.0%増）となりました。

事業別の売上状況は、以下のとおりであります。

A. 建築資材事業

主力の建築資材事業の売上は、13,438百万円（前年同期比2.5%増）で、売上高全体の76.4%を占めました。前述の注力分野としてのターゲットの明確化と自社生産品への注力活動により、堅調に推移しました。

うち外装建材は、2,409百万円（同4.7%増）でした。外装装飾部材、換気部材は伸び悩みましたが、ウッドショックの反動で樹脂製瓦葺、さらに注力品の防水部材が好調に推移しました。

内装建材は、5,795百万円（同3.4%増）でした。見切部材は低調に推移しましたが、注力品の樹脂開口枠、断熱材は堅調に推移しました。

床関連材は、3,495百万円(同0.8%減)でした。樹脂系床仕上材・乾式遮音二重床システム部材は伸び悩みましたが、注力品のOAフロア材・床支持具は順調な伸びを示しました。

システム建材は、1,739百万円(同3.1%増)でした。請負工事付きの木粉入り樹脂建材は東京オリンピック需要の反動減を受けて落ち込みましたが、防蟻関連材は好調に推移しました。

B. 産業資材事業

産業資材事業の売上は、4,157百万円(同10.6%増)で、売上高全体の23.6%を占めました。機器部材、住宅設備向け部材は堅調に推移しましたが、車輛部材、精密化工品は伸び悩みました。

資産、負債および純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ151百万円(前期末比0.3%)減少し、47,366百万円となりました。主な増減要因としては、流動資産では、収益認識会計基準を当期から適用したことにより、棚卸資産が285百万円増加した一方で、現金及び預金が224百万円減少、また受取手形、売掛金及び契約資産が314百万円減少したこと等により、241百万円(同0.8%)の減少となりました。固定資産では、有形固定資産が185百万円減少した一方で、投資その他の資産が270百万円増加する等、89百万円(同0.6%)の増加となりました。

負債は、前連結会計年度末に比べ542百万円(前期末比3.6%)減少し、14,691百万円となりました。主な増減要因と

しましては、流動負債では、収益認識会計基準を当期から適用したことにより、有償支給取引に係る負債が505百万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が694百万円減少、また未払法人税等が177百万円減少したこと等により、637百万円(同4.7%)の減少となりました。固定負債では、繰延税金負債が123百万円増加した一方で、リース債務が29百万円減少する等、95百万円(同6.2%)の増加となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ391百万円(前期末比1.2%)増加し、32,675百万円となりました。利益剰余金が144百万円増加したことや、其他有価証券評価差額金が196百万円増加したこと等によるものです。この結果、株主資本合計は30,290百万円、自己資本は32,069百万円となり、自己資本比率は67.7%となりました。

今後の経営環境につきましては依然として不透明な状況が続くものと予想されますが、現時点において令和3年5月12日公表の通期連結業績予想に変更はありません。

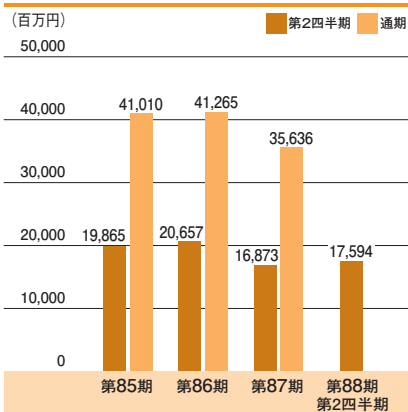
実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

株主の皆さまにおかれましては、何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

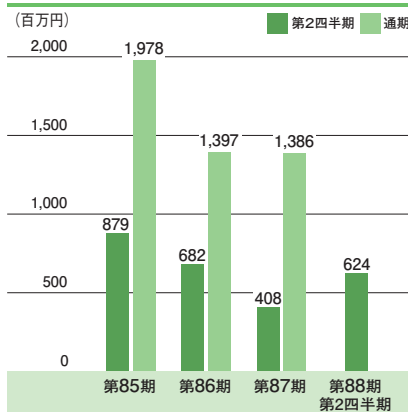
令和3年12月

代表取締役社長 **八木誠一郎**

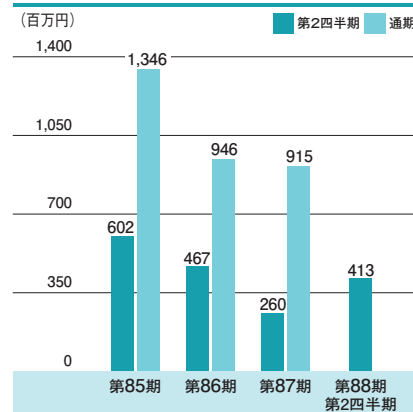
● 連結売上高



● 連結経常利益



● 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



令和3年5月～11月の主なTOPICS

福井県ろうあ協会様にコミュニケーションマスクを贈呈しました

令和3年
5月27日



当社は、昨年11月に宣言したSDGsへの取り組み活動の一環として、また、コロナ禍での聴覚障がいの方々の円滑なコミュニケーションに役立ててもらおうと、福井県ろうあ協会様に、手話を使う際に欠かせない口元の表情を透明なフィルムを通して伝えることができるコミュニケーションマスク200枚を、販売を委託している株式会社八木熊と共同で贈呈しました。当製品は、開発段階より県ろうあ協会様からご意見を頂いたり、サンプル評価にご協力いただいた経緯があり、是非このマスクを活用していただきたいということで、今回の贈呈に至りました。

オリンピック聖火リレーに社員が参加しました

令和3年
5月29日

オリンピックの聖火リレーが福井県内で行われました。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きつつあった県内では、感染防止策を万全にしつつ、公道でのリレーが実施されました。当社からは、八木社長が鯖江市内を、生産サポート部の谷崎さんが若狭町内を、それぞれランナーとして大役を果たしました。

沿道には大勢の観客が聖火リレーの様子を見に訪れていましたが、感染防止のため歓声は抑え、拍手での応援を送っていました。



コロナ対策ソリューションWEBサイトを開設しました

令和3年
6月1日



当社とリフォジュール株式会社は、一般消費者向けの新型コロナウイルス対策製品を包括的に提案する「フクビグループのコロナ対策ソリューションWEBサイト」を開設しました。

コロナ対策品で感染防止機能を持ち、一般消費者向けという共通点を持った当社の「コミュニケーションマスク」「ハーツラスAR飛散防止パネル」と、リフォジュールの「メンブレン パーテーション」を取り扱うWEBサイトとして開設し、各製品の詳細情報やオンラインストアへのリンクを掲載しています。右記QRコードよりご覧くださいませ。





新型コロナウイルスワクチン職域接種を行いました

令和3年
6月26日～
8月21日



当社社員とご家族、グループ企業社員とご家族、および本社周辺の地域住民の方々を対象として、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を行いました。毎週土曜日にワクチン接種を実施し、8月末までに約1,000人の接種希望者に対して2回の接種を完了いたしました。

社員からは、早く接種できて良かったとの感想や、職場を会場として同僚とともに接種を受けられることが安心感に繋がっている、との声も聞かれました。

フクビ化学・リフォジュール・アリス化学の3社協賛によるコンサートを開催しました

令和3年
7月11日

ハーモニーホールふくいにて行われた「NHK交響楽団(指揮:熊倉優、バイオリン:辻彩奈)」のコンサートに、当社グループ(フクビ化学、リフォジュール、アリス化学)が冠協賛をいたしました。

当社グループは、SDGs活動の一環として地域貢献に取り組んでおりますが、前々回の「ロシア国立交響楽団コンサート」、前回の「平原綾香コンサート」に引き続き、今回もたくさんの方々にお越しいただきました。なお、会場はしっかりとコロナ感染対策されており、皆さん安心して一流の音楽に酔いしれておられました。



高校生向け職場見学会を開催しました

令和3年
7月21日



福井県立藤島高等学校の1年生12名が当社で職場見学を行いました。藤島高校は「キャリア教育講座」の一環として、県内企業の職場見学を行っており、企業について知ること、将来福井で活躍する人材の育成を推進しています。当社としても、将来の就職先候補の一つとして認知してもらえる機会であり、さらに地元企業のモノづくり・技術に興味を持ってもらうことで、地域活性化に貢献することができます。今回の見学会を実施しました。工場・ショールーム見学、若手社員との座談会を行い、当社への理解を深めていただく機会となりました。

令和3年5月～11月の主なTOPICS

東京ベンチプロジェクトに参画しました

令和3年
8月2日



株式会社グランドレベルが企画する「TOKYO BENCH PROJECT 2021」(8月2日～9月5日)に参画し、10月下旬より販売を開始した屋外家具ブランド「Fandaline(ファンダライン)」のベンチを、東京の丸の内と大手町でお披露目しました。「TOKYO BENCH PROJECT」は、ベンチを置くことで、エリア全体の回遊性と日常的な賑わいを高め、人々の消費行動や健康度、そしてコミュニティの醸成を押し上げるものです。丸の内、大手町に計15台のベンチを設置し、街中にも似合うベンチが初めてお披露目される機会となりました。

プラスッドの屋外家具「ファンダライン」を新発売しました

令和3年
10月1日

当社は、屋外家具ブランド「Fandaline(ファンダライン)」を株式会社グランドレベルと共に立ち上げ、10月下旬より販売を開始しました。

近年、街中や歩道などを再活用するさまざまな取り組みが実施されています。ファンダラインはそういった公共空間に設置することを想定しており、当社の人工木材「プラスッド」を使用することで、長期間屋外で使用できる耐久性を備えた新しい屋外家具ブランドシリーズとなっています。



福井駅前の社会実験「ふくみち」に参画しました

令和3年
10月2日～
10月17日



福井駅前の歩道上で開催された社会実験「ふくみち」に参画し、屋外家具ブランド「Fandaline(ファンダライン)」の提供を行いました。

福井駅周辺は北陸新幹線の福井開業を控え、大規模な再開発が進められており、「ふくみち」はキッチンカーやカフェなど市民の憩いやにぎわいを創出する空間を設置し、歩行者中心の道路への転換を探る社会実験です。当社は「ファンダライン」のベンチ、テーブル、プランター、ポスタースタンドの提供を行いました。



CFRTP (熱可塑性炭素繊維複合材) 製造プロセスの開発が NEDOの省エネルギー技術研究開発事業に採択されました

令和3年
10月18日

2017年より福井県工業技術センターとともに開発を進めてきたCFRTP(熱可塑性炭素繊維複合材)製造における研究開発テーマ「熱可塑性薄層プリプレグシート*を用いた革新一貫製造プロセスの開発」が、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム」実用化開発フェーズに採択されました。本事業は省エネルギー型経済社会の構築および産業競争力の強化に寄与することを目的として、高い省エネルギー効果が見込まれる技術開発を助成対象としています。

従来のCFRTPの成形品は、長い製造プロセスによる高い製造コストと低い生産性が課題でしたが、一貫製造プロセスの開発に取り組み、フィルム成形、薄層プリプレグシート、チョップドシートの各工程の生産性を現状の2倍以上に引き上げ、低コスト化を目指します。また、フィルムから最終成形品までの製造工程全てを自社で実施することで独自性の高い成形技術を構築し、工程全体の省エネルギー化を目指します。特に当社独自の技術であるチョップドシートは、プレス成形により高強度で複雑な成形が可能であり、プレス工程の生産性を高める成形技術開発に取り組み、リサイクルも容易なため今後拡大が期待されるCFRTPの市場浸透を図ってまいります。

※繊維に熱可塑性樹脂を含ませた薄層薄肉のシート材料



株主様工場およびショールーム見学会に関するお知らせ

従来ここでご案内し募集しておりました「株主様工場およびショールーム見学会」につきましては、2年連続で新型コロナウイルス感染拡大によりやむなく中止となり、ご応募いただきました株主様には大変ご迷惑をおかけしました。

引き続き今後の感染状況が予測できないため、次回の見学会につきましては、別途当社HP等にて開催のご案内をさせていただきます。

おうち時間の快適化、脱炭素化社会への貢献

フクビは断熱リフォームを推進

コロナ禍でおうち時間が増加し、住宅の快適性を求めるリフォーム需要が増加しています。冷暖房効率を高めるの脱炭素化において注目されています。フクビは断熱リフォームを推進し、2050年カーボンニュートラルの実現



断熱リフォームのメリット

1 室内の上下温度差が小さいと、底冷え感や不快感も解消。

足元と床高1.2mの温度差が3°C以内が理想的です。断熱リフォームを行うことで、同じ暖房設定でも上下温度差を少なくすることが可能です。

2 アトピーや喘息などの症状改善の傾向が。

断熱性能と健康は密接に関係しています。高断熱住宅の場合、様々な疾病の症状が改善しやすいという調査結果があります。

します。

断熱リフォームは、住宅
に向けて貢献します。



リフォーム用断熱パネル

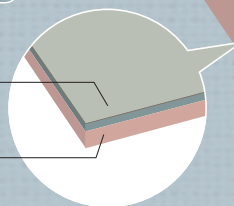
フェノバボードR

住宅の断熱性を抜本的に高める
「断熱リフォーム」を、
壁を剥がさず手軽に実現できる
リフォーム用断熱パネルです。

令和3年度
次世代省エネ建材補助対象

超軽量せっこう板

フェノバボード



高機能フェノールフォーム断熱材

高い断熱性能

約25%軽い超軽量せっこう板使用

優れた施工性

用途に応じた専用品もご用意

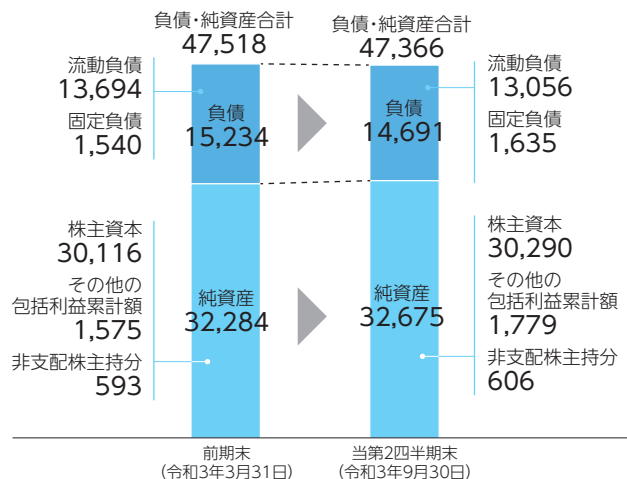
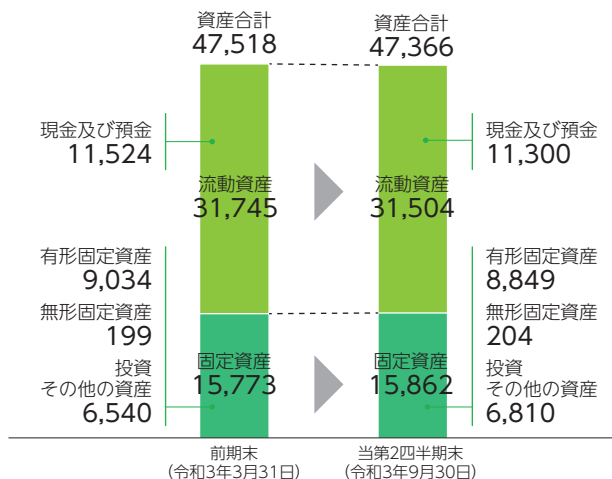
合板タイプ

「見切と言えばフクビ」だからこそ

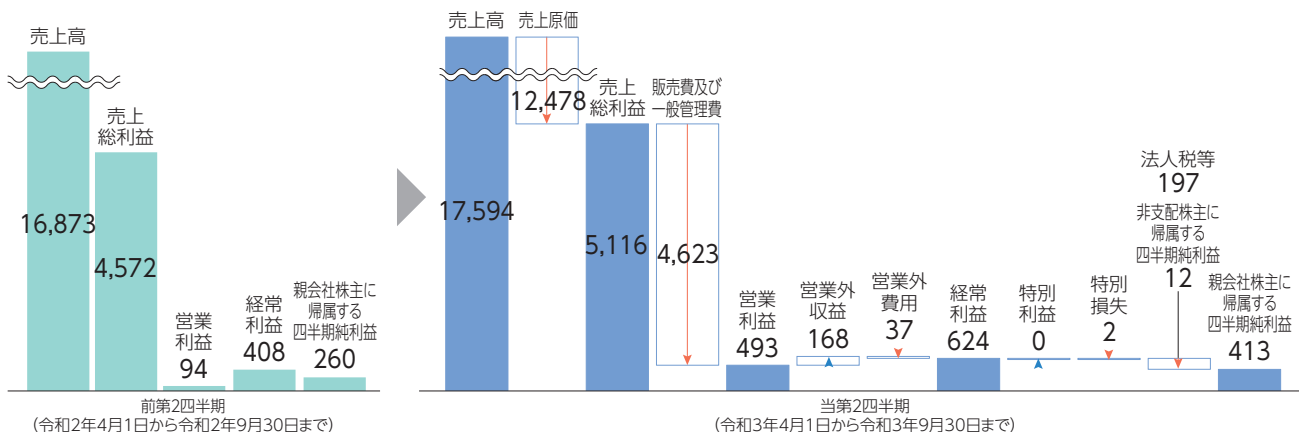
専用見切

連結財務諸表の概要

【資産の状況】 (百万円)



【損益の状況】 (百万円)



会社の概要

会社の概要

(令和3年9月30日現在)

創 立 昭和28年5月25日

資 本 金 21億9,390万円

U R L <https://www.fukuvi.co.jp/>

主要な事業品目

建 築 資 材

外 装 建 材

セミックス(窯業系不燃外装材)、左官定木、エコランバー、換気材、スーパーエアテックス(防風透湿シート)、土台パッキン、エクラート(FRP製外装装飾材)、ウェザータイト(防水部材)、耐震関連部材

内 装 建 材

バスパネル(浴室用パネル)、見切、内装下地材、点検口枠、アルパレージ、樹脂開口枠、養生材、フェノバボード・フクフォーム・フクフォームEco(断熱材)、ケンジュール(人工大理石)、越柵(不燃手すき和紙化粧板)

床 関 連 材

クッションフロア、床タイル、フリーフロア、乾式遮音二重床システム、OAフロア(フリーアクセスフロア)、機能束(ブラ束、鋼製束)

システム建材

エアサイクルシステム、リフォジュール(リフォーム天井システム)、アリダン工法(防蟻工法)、プラスッド(木粉入り樹脂建材)、メルツエンサッシ内窓

産 業 資 材

樹 脂 サ ッ シ 窓枠、浴室用ドア

産 業 機 器

車両部材、住宅設備部材、機器部材、仮設部材、精密化工品

役 員

(令和3年9月30日現在)

代 表 取 締 役 八 木 誠一郎
社 長 執 行 役 員

代 表 取 締 役 采 野 進
副 社 長 執 行 役 員

代 表 取 締 役 大 畑 忠
専 務 執 行 役 員

取 締 役 岩 淵 滋

取 締 役 諫 山 滋 三井化学株式会社 常勤監査役

取 締 役 南 保 勝 福井県立大学地域経済研究所所長

取 締 役 執 行 役 員 加 川 潤 一

取 締 役 執 行 役 員 豊 嶋 雅 子

常 勤 監 査 役 川 瀬 慎一郎

監 査 役 玉 井 三千雄 あおぞら経営税理士法人 代表社員

監 査 役 藪 原 孝 夫 藪原孝夫税理士事務所長

顧 問

顧 問 長 瀬 洋 長瀬産業株式会社 代表取締役社長

顧 問 森 克 則 三井物産プラスチック株式会社 代表取締役社長

顧 問 小 田 英 治

企業理念

- ・化学に立脚し、新たな価値を創造、提案する。
- ・企業経営を通じて、地域に貢献し、環境共生型社会形成に寄与する。

中長期ビジョン

- ・新たな技術開発と市場創造に絶え間なく挑戦し、快適な社会の実現に貢献する。
- ・一人一人の成長と企業の成長が一体となることで、喜びを実感できるフクビグループを目指す。

株 主 メ モ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日

公告方法 電子公告により行います。
ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

<https://www.fukuvi.co.jp/>

上場証券取引所 東京市場第2部・名古屋市場第2部

単元株式数 100株

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪府中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先(電話照会先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

ご注意

未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店にてお取扱いいたします。

独自の技術で未来をひらく



この事業報告書は、環境に配慮し、植物油インキを使用しております。

